

並立表現「AといわずBといわず」の文法的特徴と 日本語教育における取り上げ方

Grammatical Features of the Coordinating Expressions “A *toiwazu* B *toiwazu*” and Take-Up in Japanese Language Education

安 祥 希

1 はじめに

本稿では、日本語能力試験（JLPT）N1の文法対策教材で取り上げられている並立表現「AといわずBといわず」を取り上げる¹。

- (1) 風の強い日だったから、口といわず、目といわず、すなほこりがは
いってきた。
- (2) 車体といわず、窓といわず、はでなペンキをぬりたくった。
- (3) 入り口といわず、出口といわず、パニックになった人々が押し寄せ
た。
(グループ・ジャマシイ2023:274-275)

グループ・ジャマシイ（2023:275）は、この「AといわずBといわず」につ
いて「あるものの部分を表す名詞を繰り返して、「区別をつけなくて全部」の
意味を表す」とする。詳しくは2節で確認するが、日本語教育関係の文法教材
でも「といわず」の意味は「区別なく」「全部（すべて）」あるいは「だけでな
く」といった言葉を用いて説明されている。しかし、助詞「と」と動詞「言う」
の否定から成る「といわず」がなぜ「区別なく」「全部（すべて）」「だけでな
く」といった意味を表すのかという点については明らかにされていない。また、並
立の専門形式ではない譲歩的条件文²が、前件でいかなる事態を想定しても、
後件に変わりはないということを表すことで臨時的な並立関係を作ることが森
山（1995:127）で指摘されているが、譲歩的条件文由来でない「といわず」が

¹ 先行研究や教材、コーパスから引用した例に対する下線等の強調は、特に断りがない
場合は引用者が付したものである。

² 富樫（2005）では「逆接条件文」という用語も用いられている。

なぜ並立用法を獲得できたのか、という点についても明らかにされていない。

以上を踏まえ、本稿では、並立表現「AといわずBといわず」について、①助詞「と」と動詞「言う」の否定から成る「といわず」の用法間の関係、②「AといわずBといわず」が「区別なく」「全部（すべて）」「だけでなく」という意味を表すメカニズム、という観点から分析を行うことでその文法的特徴を明らかにしたうえで、③「AといわずBといわず」の文法的特徴を踏まえた日本語教育における取り上げ方、について論じていく。

2 日本語学習者向け文法教材での取り上げられ方および先行研究

まず、日本語学習者向けの教材における「といわず」の取り上げられ方について確認を行う。

「AといわずBといわず」は日本語能力試験（JLPT）N1の文法対策教材で取り上げられている。ここでは、『日本語能力試験』対策 日本語総まとめ N1 文法』（以下、「日本語総まとめ」）、『新完全マスター 文法 日本語能力試験 N1』（以下、「新完全マスター」）、『45日間で完全マスター 日本語能力試験対策 N1 文法総まとめ』（以下、「N1文法総まとめ」）、『TRY！日本語能力試験 N1 文法から伸ばす日本語 [改訂版]』（以下、「TRY！改」）の4冊の記述を確認する。

（4）『日本語総まとめ』における意味記述と用例（p.37）

意味：N₁N₂の区別なく。

- ① 日本人は、子どもといわず、大人といわず、マンガをよく読む。
（=子どもも、大人も、だれでも）
- ② 私は、牛肉といわず、豚肉といわず、肉は食べません。（=牛肉や豚肉だけでなく）
- ③ 最近の若者は、食事中といわず、テレビを見ている間といわず、いつでも携帯電話を手にかけている。（食事中やテレビを見ている間だけでなく）

（5）『新完全マスター』における意味記述・解説と例（p.21）

意味：～も…も区別なく全部・あらゆる所・いつも、同じようだ。

解説：同じ意味のグループに入る例を並べるが、時間的・空間的に

つながりがある言葉の組み合わせ（昼と夜・手と足など）が多い。後には、状態を表す文だけでなく、③のように動詞の文も来る。マイナスイメージの文が多い。否定文や働きかけの文は来ない。

- ① 砂浜で遊んでいた子供たちは、手といわず足といわず全身砂だらけだ。
- ② 室内で犬を飼っているので、廊下といわず部屋の中といわず家中犬の毛が落ちている。
- ③ 営業マンの島田さんは平日といわず週末といわず休む暇なく社外に出て働いている。

(6) 『N1文法総まとめ』における意味記述・解説と例 (p.122)

意味：～だけでなく

解説：特定のケースだけではなく、すべて（なに、いつ、どこ、だれ、なに 他）においてそれが言えるということを強調したい時の表現。

- ① 引きこもりの息子は、昼といわず夜といわずパソコンに向かっている。
- ② 国際弁護士の友人は、国内といわず海外といわず年中出張している。
- ③ 友人は動物が大好きで、犬といわず猫といわずペットにしている。

(7) 『TRY! 改』における意味記述と例 (p.83)

意味：「AといわずBといわず」は「AでもBでも何でもすべて」という意味を表す。

- ① 昼といわず、夜といわず、大型のダンプカーが通るのでうちが揺れて困る。
- ② キティちゃん好きの彼女は服といわず、文具といわず、全部キティちゃんグッズで統一している。
- ③ 社交的な田中君は、先輩といわず後輩といわず、誰彼なしに気軽に声をかける人だ。
- ④ 彼の部屋は、床といわずベッドの上といわず、いろいろなもの

が散乱しています。

以上から、(上述のグループ・ジャマシイ2023を含む)日本語教育関係の文法教材において、「といわず」の意味は「区別なく」「すべて(全部)」あるいは「だけでなく」といった言葉を用いて説明されていることがわかる。

次に文法研究における「AといわずBといわず」の分析を見る。「AといわずBといわず」は、管見の限り、文法研究ではほとんど取り上げられていない。実際、日本語教育における並立表現の説明の仕方に大きな影響を与えた寺村(1991)や、並立表現を体系的に扱った中俣(2015)にも記述は見られない。

そのような中で唯一「AといわずBといわず」について言及しているのが砂川(2005, 2006ab)である。砂川(2005, 2006ab)は、動詞「言う」を用いた複合辞を分析する中で副助詞相当の複合辞の一つとして「といわず」を挙げ³、砂川(2006a)でその「並立的にことごとを列挙する用法」について言及している。

(8) 色といい形といい、実にすばらしいできばえだ。

(9) 手といわず足といわず、ところかまわず蚊に刺された。

(砂川 2006a:95、下線ママ)

砂川(2006a:95-96)は、(8)の「AといいBといい」は「述語に「すばらしい」「申し分ない」「気に入らない」「派手すぎる」など評価を表す表現を用いて、AやBだけでなく他のものにもその評価が当てはまるという含みを持ち、「この含みがさらに進んで「AやBだけでなく他もすべて」という含みを感じさせる場合が少なくない」と述べたうえで、その否定形である「AといわずBといわず」では「この意がさらに強まり」、(9)では「「手や足はもちろん体中すべて」という意がより一層強く強調されている」とする。

砂川(2006a)は「AといわずBといわず」に言及した唯一の研究である点で評価されるが、助詞「と」と動詞「言う」の否定から成る「といわず」が「すべて」(や、「区別なく」「だけでなく」)という意味を含むのはなぜか、そもそも「といわず」が並立的にことごとを列挙できるのはなぜか、という点については明らかにされていない点に課題がある。

³ 並立表現は、並立助詞というカテゴリーを立てない場合には副助詞に含められることが多い。その際の副助詞は「いろいろな語句に付いて、意味を付け加える」と定義される。丹羽(2006:102-103注2)も参照されたい。

以上を踏まえ、以下では、3節で「助詞「と」と動詞「言う」の否定から成る「といわず」の用法間の関係」について、4節で「「AといわずBといわず」が「全部（すべて）」「だけでなく」という意味を表すメカニズム」について分析を行っていく。そして5節では、それまでの分析を踏まえ、「文法的特徴を踏まえた「AといわずBといわず」の日本語教育における取り上げ方」について論じる。

なお、教材や先行研究で挙げられている「AといわずBといわず」の用例は2項のもののみであるが、次に示すように3項の例も見られる。

- (10) 建物は、十六トンの扉にふさわしく巨大なもので、床といわず壁といわず天井といわず、ありとあらゆる面がピカピカに磨き上げられた大理石で飾りつけられて、荘厳で立派で寒々しいこと限りない。

(BCCWJ：石丸元章『平壤ハイ』)

- (11) 六月のある日、堆肥と飼料にする甜菜を運ばせるために庭から騾馬引きを呼び寄せたとき、アルプキウスは、髪を振り乱したスプリアが騾馬引きの助けを借りて、文庫といわず、書齋といわず、居間といわず、あらゆる部屋から女性の名を冠したすべての書物を運び出しているところに出くわした。

(BCCWJ：パスカル・キニャール／高橋啓（訳）『アルプキウス』)

ここから、「AといわずBといわず」も他の並立助詞・並立表現と同様に3項、もしくは、それ以上の並立が可能であると考えられるが、以下で示す本稿の主張は、2項の場合でもそれ以上の場合でも同様に成り立つため、次節以降の議論でも「AといわずBといわず」と示し、2項の用例を用いて論を進めていく。

3 「といわず」の用法間の関係

本節では、「といわず」の用法を分類し、動詞「言う」の否定形として機能する「といわず」から並立表現「といわず」までの用法間の関係を記述する。

結論から述べるなら、本稿では、「といわず」には表1に示すような3種類5種類の用法があり、表1の上から下に連続的な関係にあると見る。

表1 「といわず」の諸用法

用法		例	用例 番号	動詞の 意味の 実質性	要素の 置換
発話・発言の 否定		節分に「鬼は外」といわず、「鬼は内」とおらぶ地域があったことは、まえに書いた。	(12) (13)	○	○
区別 の 否定	非部分	袋の中の塩は、こまかい結晶ではなく真白な粉状で、毎日 <u>スプーン</u> といわず、指先にも塩を当てている母親は、これでもお塩なのかと目に力を入れた。	(14)	×	×
	部分	<u>唇の端</u> といわず、口全体から、滝のように涎がこぼれていた。	(15)	×	×
集合 操作	単項	いままで、秋葉は霧子に暴力をふるったことはない。 <u>霧子</u> といわず、女性に対して荒々しい行為をしたことはない。	(17)	×	×
	2項以上 (並立)	風の強い日だったから、 <u>口</u> といわず、 <u>目</u> といわず、 <u>すなほこり</u> がはいってきた。	(18)	×	×

以下、それぞれの特徴を確認していく。

3.1 発話・発言の否定

「といわず」の構成要素「言う」が本動詞として「発話・発言」という実質的な意味を表すものである。このタイプの「といわず」のみ、否定の「ず」を「ずに」や「ないで」に置換できたり、助詞「と」を「って」に置換できたりすることができる。

- (12) わが国で、ヴェジタリアンを「菜食料理」といわず／といわずに／といわないで／っていわず、「精進料理」と呼ぶのは、そのような理由からである。（BCCWJ：阿部慈園『インド仏教文化入門』）

- (13) 節分に「鬼は外」といわず／いわずに／といわないで／っていわず、「鬼は内」とおらぶ地域があったことは、まえに書いた。

(BCCWJ：倉本四郎『鬼の宇宙誌』)

3.2 区別の否定

「といわず」の構成要素の「言う」が「発話・発言」という実質的な意味を表さず、前接名詞を言語表現上に選び出した結果生じた他と区別を否定することで「それだけでなく」「それだけでなく」といった意味を表すようになったものである。このタイプには、単に前接名詞を選出するもの(= (14))と、全体に対する一部分として選出するもの(= (15))とがある。ここでは便宜的に前者を「非部分タイプ」、後者を「部分タイプ」と呼んでおく。

- (14) 袋の中の塩は、こまかい結晶ではなく真白な粉状で、毎日スプーンといわず、指先にも塩を当てている母親は、これでもお塩なのかと目に力を入れた。(BCCWJ：竹西寛子『群像 第57巻第1号』)

- (15) 唇の端といわず、口全体から、滝のように涎がこぼれていた。

(BCCWJ：菊地秀行『魔界都市ブルース3』)

(14) (15) からは「だけでなく」という意味が読み取れるが、本稿では、この意味は「全体-部分」の関係を作るタイプから生じるものであると見る。

(14) の後続文脈には「指先にも」とあるため、「母親は毎日スプーンだけでなく、指先にも塩を当てている」という解釈が生じるが、(16) のように「もの」のない文にすると「母親は毎日スプーンではなく、指先に塩を当てている」という解釈も現れる。

- (16) 袋の中の塩は、こまかい結晶ではなく真白な粉状で、毎日スプーンといわず、指先に塩を当てている母親は、これでもお塩なのかと目に力を入れた。

ここから、(14) に「だけでなく」という限定の意味が生じるのは語用論的な解釈の問題であり、非部分タイプの「といわず」については「だけでなく」という意味を表していないと捉えられる。

一方、部分タイプの「といわず」は、明示的に言語化される前接名詞を選び出した結果生じた区別を否定することで、前接名詞が表す部分を含む全体が叙

述の対象となるため、「だけでなく」という意味が義務的に生じるものと考えられる。

3.3 集合操作

背景にある集合の要素を提示するものである。上述の部分タイプが表した「部分－全体」の関係が「要素－集合」の関係に転じたものと考えることができ、部分タイプ同様、明示的に言語化される前接名詞（要素）を選び出した結果生じた区別を否定することで、その要素を含む集合全体が叙述の対象となるため、「だけでなく」という意味が義務的に生じる。

- (17) いままで、秋葉は霧子に暴力をふるったことはない。霧子といわず、女性に対して荒々しい行為をしたことはない。

（BCCWJ：渡辺淳一『化身下巻』）

そして、集合操作用法で要素が複数生起したものが並立表現となる。

- (18) 風の強い日だったから、口といわず、目といわず、すなほこりがは
いつてきた。 （再掲＝（1））

3.4 本節のまとめ

以上、本節では、「といわず」の用法を3種5類に分類し、それぞれの用法について記述した。本節の記述から、並立表現「AといわずBといわず」は、本動詞「言う」が「発話・発言」という実質的な意味を失い、その後、「部分－全体」の関係を表す用法を経て、集合操作用法を獲得するに至ったことで生じた、と考えることができる。

4 並立表現「AといわずBといわず」の意味

本節では、2節で確認した日本語学習者向け文法教材の「AといわずBといわず」の項目において用いられていた「すべて（全部）」「区別なく」「だけでなく」といった説明について、3節の分析を踏まえ、文法的な根拠を与えていく。まず、「AといわずBといわず」の意味的な操作を図示したものを下に示す。

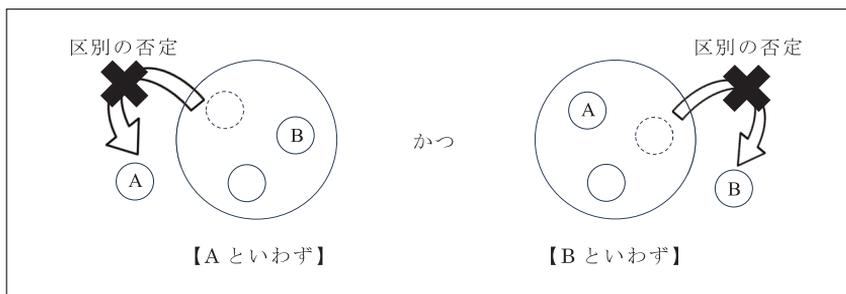


図1 「AといわずBといわず」の意味的な操作

「AといわずBといわず」では図1のように「区別の否定」が並べ立てられた要素の数だけ繰り返される。ここからAとB(さらには明示されない要素)に差がないという意味が生じ、その感覚を説明に用いたのが「区別なく」という文言であったと位置付けられる。「だけでなく」という意味については、すでに3節で述べたとおり、明示的に言語化される前接名詞を選び出した結果生じた区別を否定することで、前接名詞を含む集合全体が叙述の対象となることで生じる感覚、すなわち、「区別の否定」によって生じる感覚を説明に用いたものであり、「全部(すべて)」という説明も、「区別の否定」の際に集合全体が叙述の対象になることを捉えた文言だと考えられる。

以上から、「AといわずBといわず」は集合操作における「区別の否定」を表しており、日本語学習者向け文法教材で用いられている「すべて(全部)」「区別なく」「だけでなく」といった文言は、いずれも、「区別の否定」から生じる感覚を学習者向けにかみ砕いたものとして位置付けることができる。

5 日本語教育における取り扱い方

本節では、これまで見てきた「AといわずBといわず」の文法的特徴を活かした日本語教育における取り上げ方について提案を行う。

2節で確認した日本語学習者向けの文法教材の「AといわずBといわず」が取り上げている課と、そこで取り上げられている表現を以下に示す。

(19) 『日本語総まとめ』「第2週 私なりに努力している 4日目 デザ

インといい、色といい」(pp.36-37)

Aだのbだの／N₁といいN₂といい／N₁が(も)N₁ならN₂もN₂だ／
N₁といわずN₂といわず

(20) 『新完全マスター』「4課 例示」(pp.20-21)

～なり…なり／～であれ…であれ・～であろうと…であろうと
／～といい…といい／～といわず…といわず

(21) 『N1文法総まとめ』「第5週1日目 同じ例示でも、話し手の気持ち
ちはいろいろ！」(pp.120-123)

～だの～だの／～といい～といい／～といわず～といわず

(22) 『TRY!改』「5 ドラマのシナリオを読む 転職(2)」(pp.83-88)

早朝といわず、深夜といわず／電話に出たら出たで／聞くにたえ
ない／一歩でも外に出ようものなら／一般の人ならいざしらず
／働かせられないものか／それに越したことはない

『TRY!改』は使用場面を重視した教材のため、類義表現を纏める形にはなっていないが、他の3冊は「例示」を表す表現の中に「AといわずBといわず」を位置付けている。いわゆる例示を表す並立表現には(19)～(21)に含まれているものの他に「とか」「やら」や、「であれ」と同様に譲歩的条件文的に機能する「にしろ」「にせよ」などがあるが、これらはいずれも明示されない要素が叙述の対象になるか否かについては指定をしないタイプの「例示」を表す。反対に言えば、「AといわずBといわず」は否定の「ず」があることによって生じる「区別の否定」という文法的特徴により、AもBも含むすべての要素が叙述の対象となることを表すという点で他の並立表現と区別されるため、この相違点を強調することで学習者の記憶に残りやすくなるものと思われる。

なお、ここで提案したいのは「区別の否定」という概念を教えるということではない。しかし、「AといわずBといわず」は否定の「ず」を持つということが形式面で他の並立表現と区別される最大の特徴であるため、場合によっては、類義の表現との違いを示すよりも、集合が明示的に示された単項の集合操作用法の例を示す、すなわち、「といわず」の用法のつながりを示して、「AといわずBといわず」が行う意味的な操作の感覚をつかませるのもいいかもしれない。

(23) いままで、秋葉は霧子に暴力をふるったことはない。霧子といわず、

女性に対して荒々しい行為をしたことはない。(再掲 = (17))

また、2節で確認したように、砂川(2006a)は「AといいBといい」は述語に評価を表す表現が続き、AやBだけでなく他のものにもその評価が当てはまるという含みを持つことを指摘し、「AといわずBといわず」では上記の含みから進んだ「AやBだけでなく他もすべて」という意味がさらに強調されるとしていた。しかし、「AといいBといい」は、『新完全マスター』でも指摘されているように、「後には、状態を述べる文(話者の評価を述べる形容詞文など)が来る(p.21)」が、「AといわずBといわず」は(24a)が示すように動作的な述語も問題なく許容するため、「AといわずBといわず」と「AといいBといい」は異なる表現だと捉えた方がよい。

(24) a. ビールといわずワインといわず、毎日お酒を飲んでいる。

b. ビールといわずワインといわず、彼の飲むお酒は高級なものばかりだ。

(25) a.?? ビールといわずワインといい、毎日お酒を飲んでいる。

b. ビールといいワインといい、彼の飲むお酒は高級なものばかりだ。

ただし、「AといいBといい」については十分な研究がなされていないというのが現状である。よって、「AといわずBといわず」と「AといいBといい」の異同については別稿で改めて論じたい。

6 まとめと今後の課題

本稿では、並立表現「AといわずBといわず」の文法的特徴について分析を行い、1) 並立表現「AといわずBといわず」は、本動詞「言う」が「発話・発言」という実質的な意味を失い、その後、「部分-全体」の関係を表す用法を経て、集合操作用法を獲得するに至ったことで生じたと捉えられること、2) 「AといわずBといわず」は「区別の否定」という意味的な操作を行っていることを示し、「AといわずBといわず」の文法的特徴を活かした日本語教育での取り上げ方について提案を行った。

5節にて、「AといわずBといわず」とともに取り上げられることの多い「AといいBといい」の分析が課題になることを述べたが、「AといわずBといわず」と同じく集合の要素すべてが叙述の対象になることを表す並立表現には、田中・

安（2023）が指摘している「から」の並立用法がある。

(26) こうハンカチからマッチから口紅からチリ紙から女の持ち物がスツカラカンに抜きとられるケースは珍しい

(27) 小十郎は〈中略〉ママたくましい黄色な犬をつれて、なめとこ山からしどけ沢から三つ又からサツカイの山からマミ穴森から白沢からまるでじゅうおうに歩いた。 （田中・安2023:121）

「AといわずBといわず」は、明示されない要素が叙述の対象となるという点では、「AといいBといい」よりも「から」の並立用法の方が近いとも捉えられるため、両者の異同についても明らかにする必要があるが、こちらについても今後の課題としておきたい。

<参考文献>

- グループ・ジャマシイ（2023）『日本語文型辞典 改訂版』くろしお出版
- 砂川有里子（2005）「「言う」を用いた複合辞—多層的な文法化の事例として—」『論理的な日本語表現を支える複合辞形式に関する記述的総合研究』（平成14～16年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）（1）研究成果報告書（課題番号：14310194、研究代表者：藤田保幸））pp.1-13
- 砂川有里子（2006a）「「言う」を用いた慣用表現—複合辞の意味記述を中心に—」倉島節尚（編）『日本語辞書学の構築』pp.86-104 おうふう
- 砂川有里子（2006b）「「言う」を用いた複合辞—文法化の重層性に着目して—」藤田保幸・山崎誠（編）『複合辞研究の現在』pp.23-40 和泉書院
- 田中佑・安祥希（2023）「現代日本語「から」の並立用法」『日本語文法』23-2, pp.120-136 日本語文法学会
- 寺村秀夫（1991）『日本語のシンタクスと意味III』くろしお出版
- 富樫純一（2005）「複合助詞「にしろ」「にせよ」「であれ」—その意味と諸用法をめぐって—」『筑波日本語研究』10, pp.1-18 筑波大学大学院博士課程人文社会系日本語学研究室
- 中俣尚己（2015）『日本語並列表現の体系』ひつじ書房
- 丹羽哲也（2006）「「取り立て」の概念と「取り立て助詞」の設定について」『文学史研究』46, pp.92-104 大阪市立大学国語国文学研究室
- 森山卓郎（1995）「並列述語構文考—「たり」「とか」「か」「なり」の意味・用法をめぐって—」仁田義雄（編）『複文の研究（上）』pp.127-149 くろしお出版

<参考教材>

新完全マスター：『新完全マスター 文法 日本語能力試験 N1』、友松悦子・福島佐知・中村かおり（著）、スリーエーネットワーク、2011年

並立表現「AといわずBといわず」の文法的特徴と日本語教育における取り上げ方

日本語総まとめ：『日本語能力試験』対策 日本語総まとめ N1 文法』、佐々木仁子・松本紀子（著）、アスク出版、2010年

N1 文法総まとめ：『45日間で完全マスター 日本語能力試験対策 N1 文法総まとめ』、山田光子（著）、遠藤由美子（監修）、三修社、2012年

TRY！改：『TRY！日本語能力試験 N1 文法から伸ばす日本語 [改訂版]』、公益財団法人アジア学生文化協会（著）、アスク出版、2013年

<参考資料>

『現代日本語書き言葉均衡コーパス (<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>)』、国立国語研究所